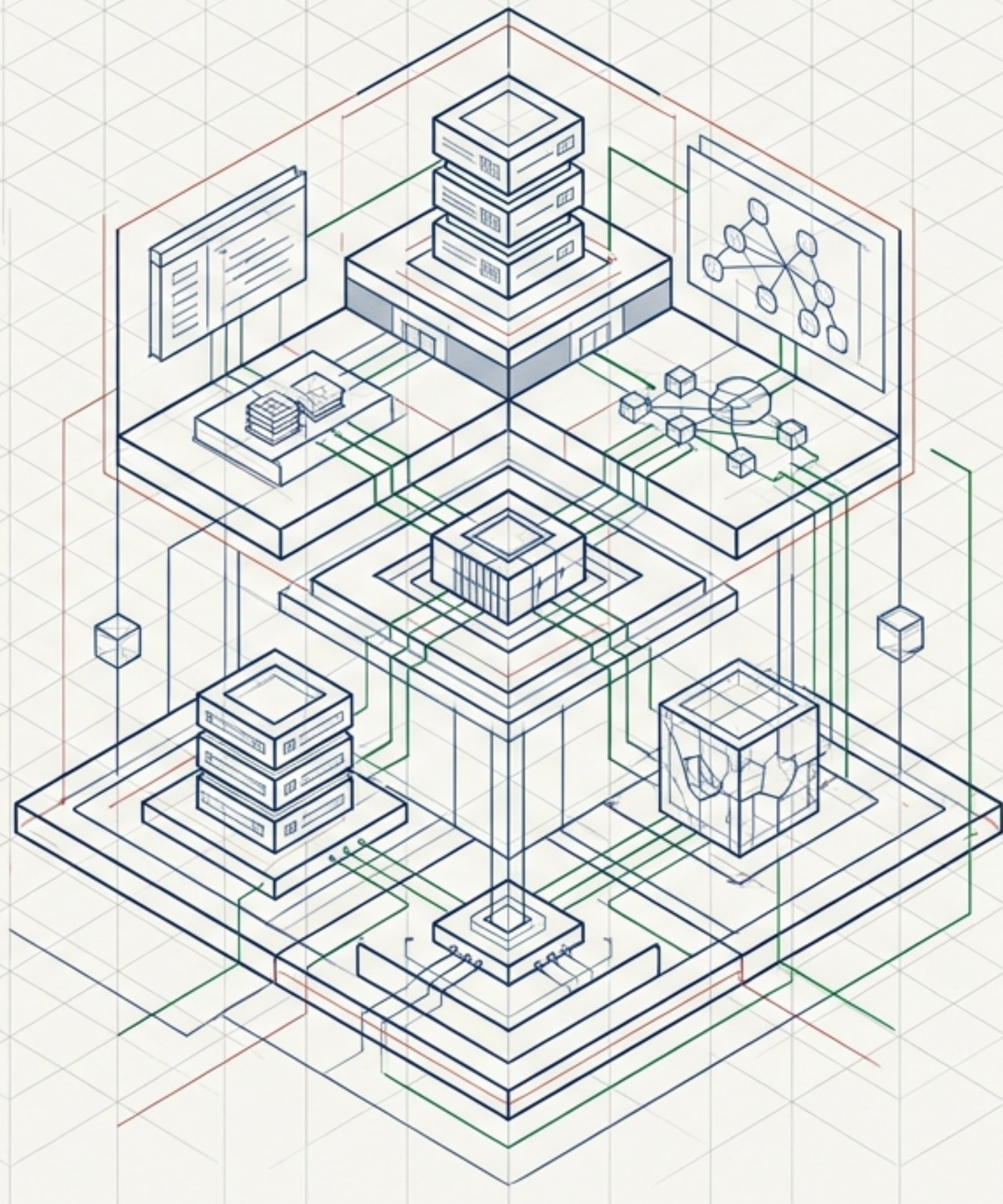


Agentic Blueprint: 2026年の知財×AI パラダイムシフト

GPT-5.6がもたらす「自律型エージェント」
時代の実務再定義と知財戦略



触媒 (The Catalyst)

GPT-5.6シリーズの登場。単なる対話型AIから、長期的タスクを協調処理する「自律型エージェント」への進化。

影響 (The Impact)

調査・明細書作成の劇的効率化と、意匠・商標における新たなリスク。
「人間とAIの協働」が実務の標準へ。

進化 (The Evolution)

USPTOが求める「人間の重要な貢献」。知財専門家は作業員から「AIマネージャー・高度設計者」へ役割をシフトする。

2026.06.26

次世代AI「GPT-5.6」 シリーズ限定プレビュー 開始

- 2026年6月26日、米OpenAIがリリース。
- 複雑な推論と自律的（エージェント）なタスクにおいて顕著な性能向上を達成。

**[Limited Access:
Trusted Partners Only]**

米政府の要請に基づく限定的リリース。

サイバーセキュリティや自律的エージェントとしての能力が極めて高く、悪用リスクの評価・管理が必要なため。
数週間以内に一般提供（GA）予定。

GPT-5.6 ラインナップ比較



Sol (フラッグシップ)

入力 \$5.00 / 出力 \$30.00
(1M tokens)

シリーズ最高性能。複雑なコーディング、生物学などの高度な推論向け（独立クレームの論理構築など）。



Terra (バランス型)

入力 \$2.50 / 出力 \$15.00
(1M tokens)

日常業務向け。前世代のGPT-5.5と同等の性能を半額で提供（背景技術の要約や翻訳など）。



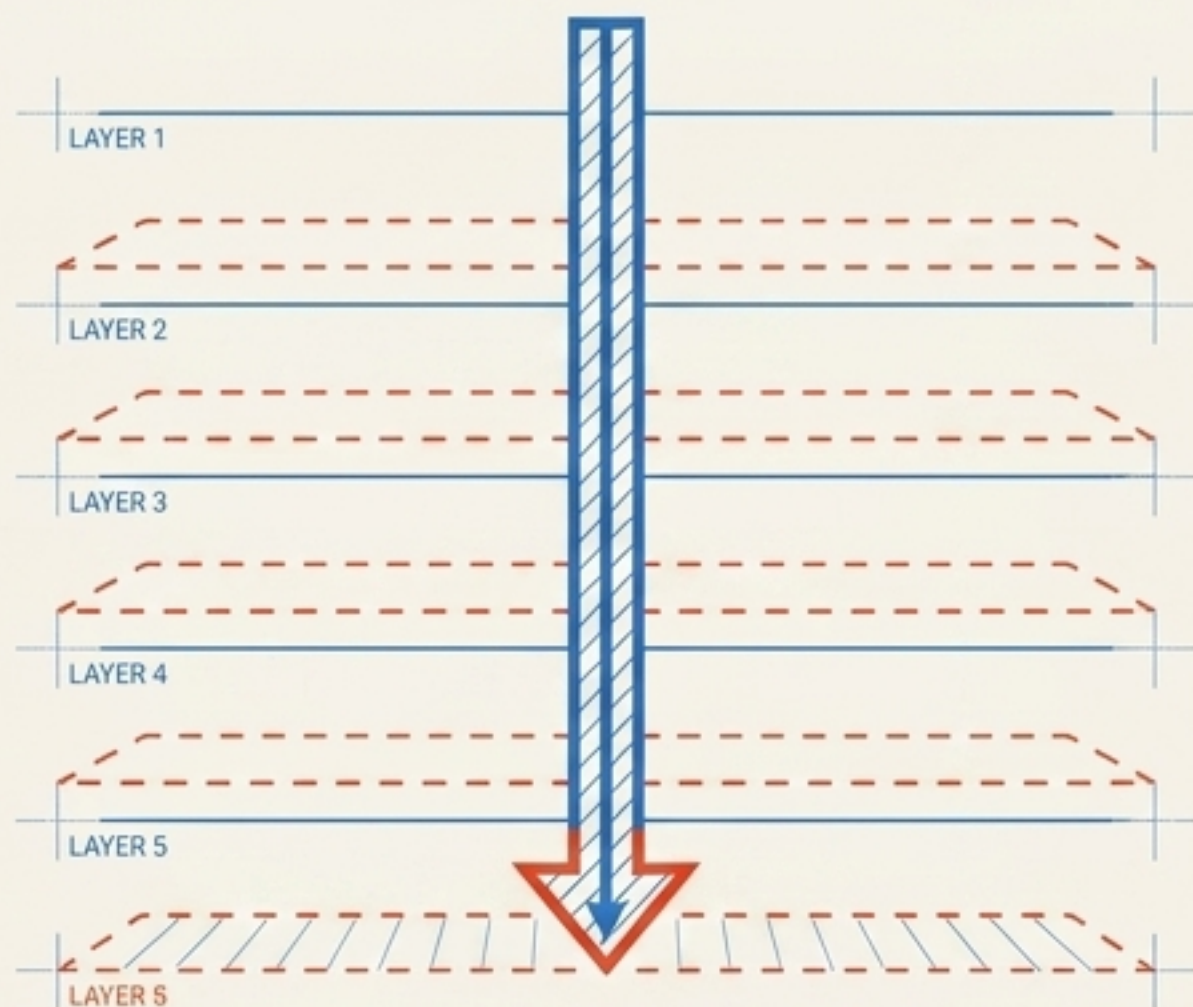
Luna (高速・低価格)

入力 \$1.00 / 出力 \$6.00
(1M tokens)

高速かつ低コスト。大量のデータ処理や低遅延タスク（大量の先行技術スクリーニングなど）。

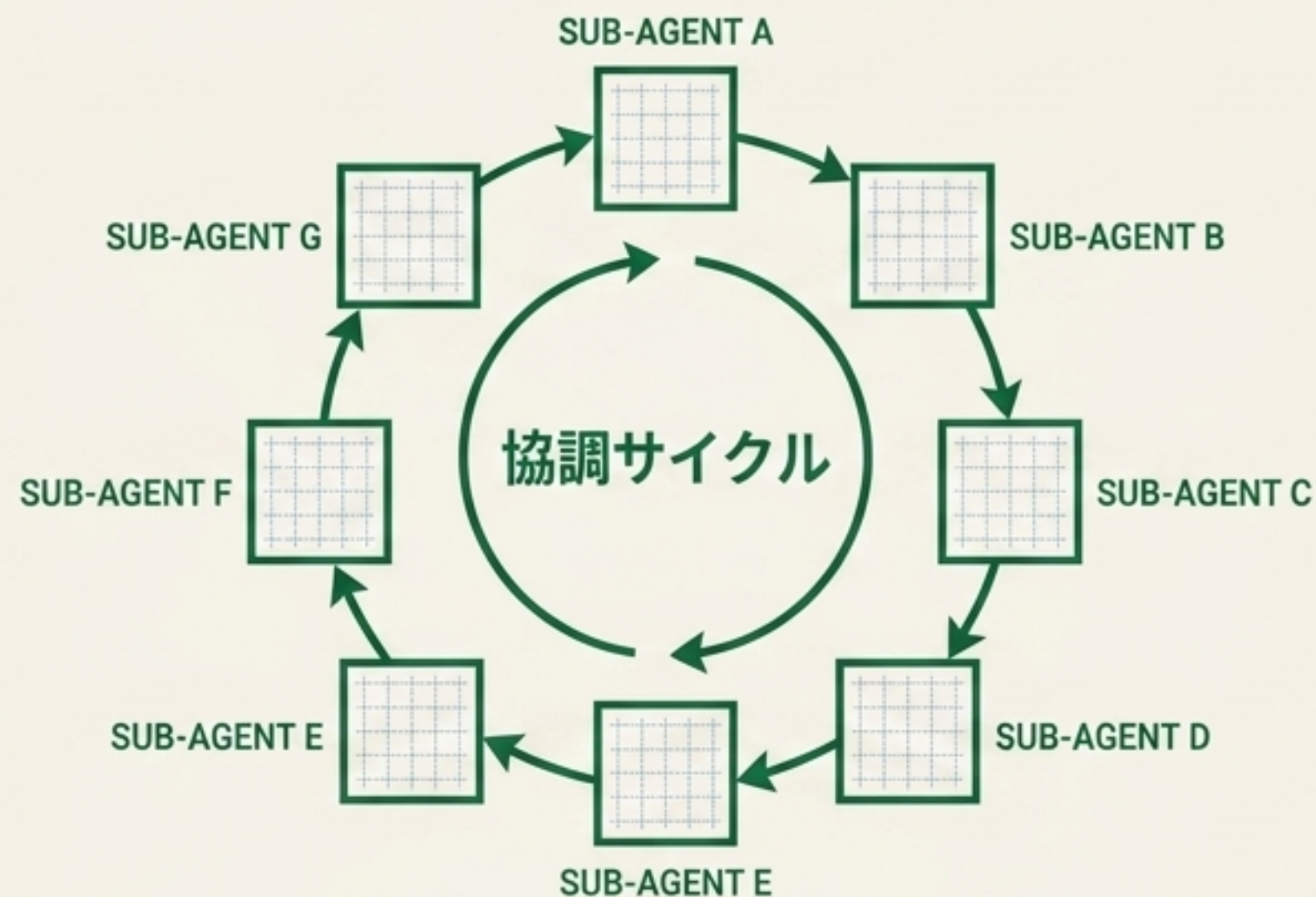
GPT-5.6 Sol 新機能

Max推論 (Max Reasoning Effort)



複雑な問題に対し、モデルがより長い時間をかけて深く思考・推論を実行。単一タスクの精度を極限まで高める。

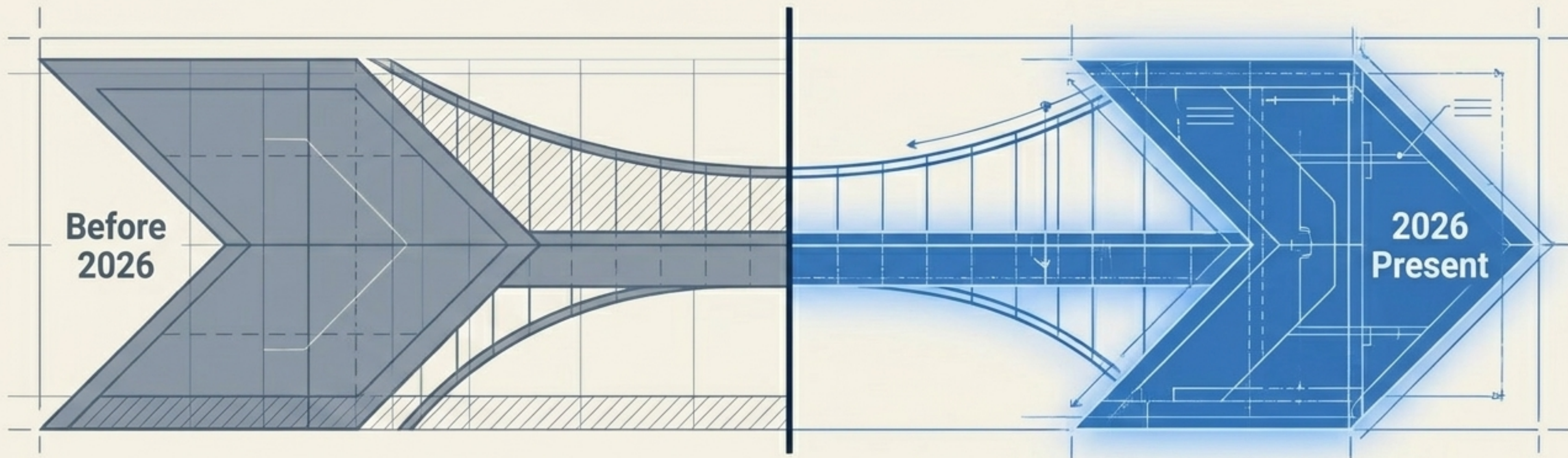
Ultraモード



単一エージェントではなく、複数の「サブエージェント」が協調。コーディングやシステム評価など、長期的なタスク (Long-horizon tasks) の自律性を大幅に向上。

検索ツールとしてのAI (Search Tool)

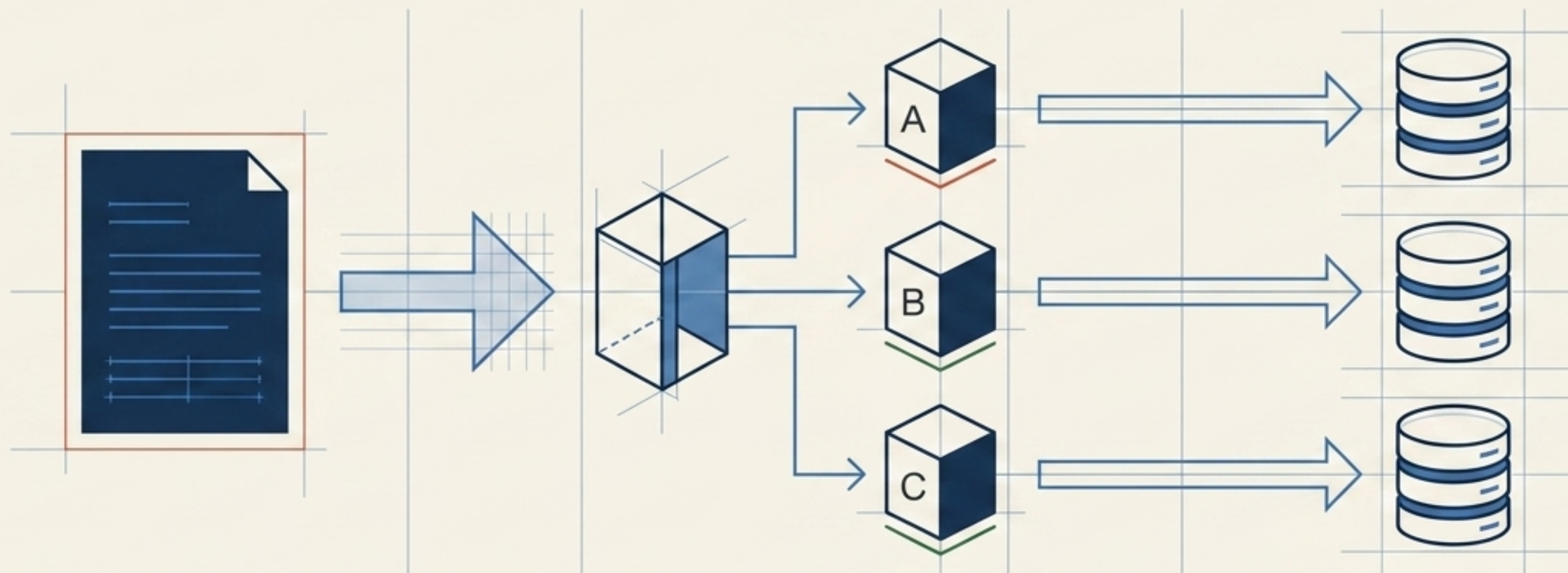
自律型エージェント (Autonomous Agent)



キーワードや分類コードに基づくブール検索。人間が指示し、AIが結果を返す単方向プロセス。

自然言語処理（NLP）と意味的類似性（Semantic Similarity）の標準化。AIが自律的に作業を進行し、結果を統合する双方向プロセス。

AIによる特許クレーム自動分解と先行技術検索のワークフロー



複雑な特許クレームの入力。

クレーム要素の自動分解。
AIが個々の構成要件を自動で
抽出。

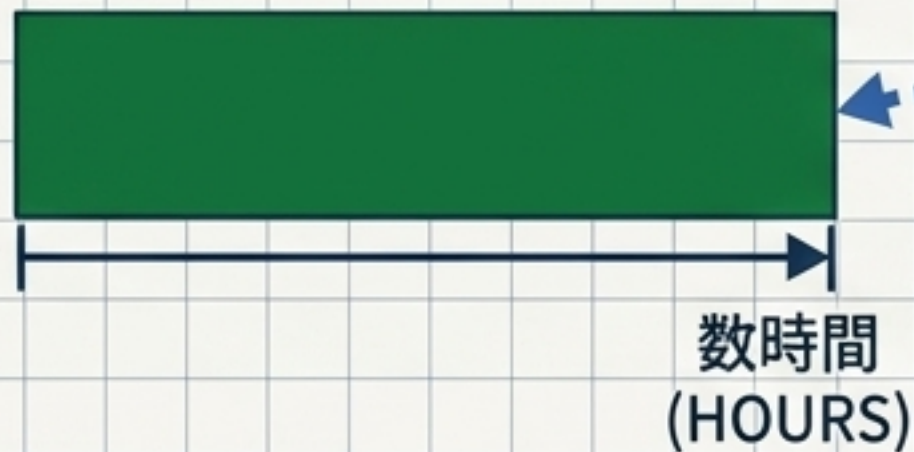
それぞれの要件に合致する先
行技術を独立して検索・照合。
人間の介入なしに高度な意味
的検索を実行。

劇的なタイムライン圧縮：従来手法 vs. 自律型AIエージェント

従来手法 (数週間)



自律型AIエージェント (数時間)



全プロセスをシームレスかつ並行して自律処理し、数週間から数時間へ劇的なタイムライン圧縮を実現。

明細書作成における「人間とAIの協働」境界線

AIが得意な領域

従属クレームの提案

背景技術の要約

実施例の初稿作成

役割: 高速なドラフト生成と網羅性の担保。

人間が担うべき領域

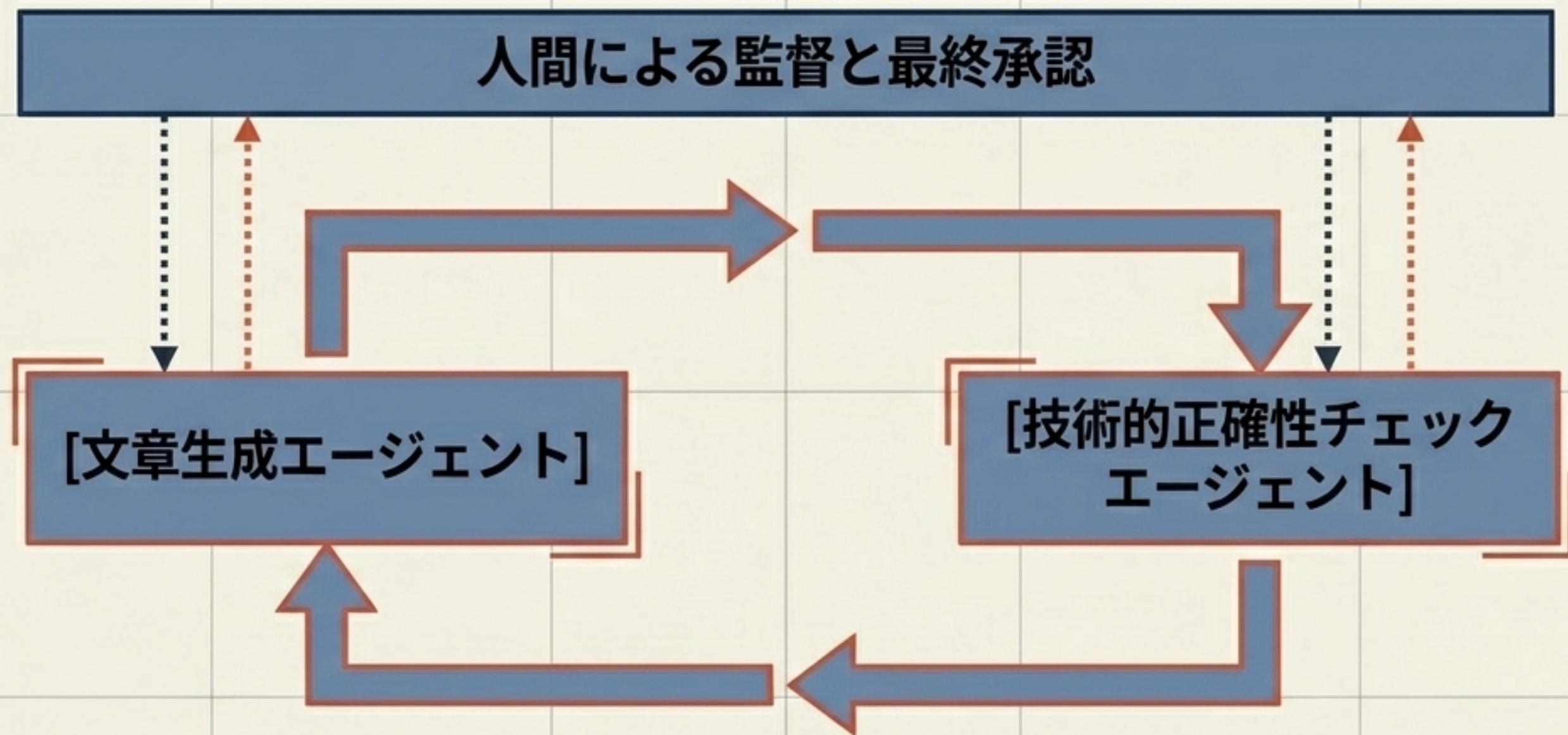
独立クレームの作成 (権利範囲の設計)

事業戦略との整合性確認

未公開発明の情報管理
(ハルシネーション・情報漏洩の防止)

役割: 戦略的判断、リスク管理、最終的な品質保証。

「Ultraモード」マルチエージェントによる明細書ドラフティング



「Ultraモード」によるマルチエージェント明細書ドラフティング。生成用AIと検証用AIを協調させることで、単一モデルの限界を超え、明細書の技術的正確性と品質を飛躍的に向上。



商標実務 - 効率化の実証

区分ヒアリングの自動化や、画像認識AIを用いたウィーン分類の特定など、業務のスピードと精度が向上。



意匠実務 - 新たなリスク

画像生成AIによる「先回り大量生成問題」。第三者が類似デザインを大量に生成・公開し、本来の創作者が登録できなくなるリスクが顕在化。法制度の整備が急務。

The Requirement: “Significant Contribution”

AIを利用した発明であっても、
「人間の重要な貢献 (Significant Contribution)」があれば特許適格性が認められる。

AIが自律的に発明を生み出す能力が高まる中、人間の関与をどう証明するかが最大の法的ハードルとなる。



[過去]

DABUS事件判決（日本・各国）等で「発明者は自然人に限る」との立場を維持。



[2025年末]

USPTO
ガイドライン改訂。

「人間の重要な貢献」を証明・記録するための戦略的ピボット

1. プロンプトの証跡化

AIへの指示（プロンプト）に、人間がいか
に技術的課題の解決策
着想を盛り込んだかを
バージョン管理・記録
する。

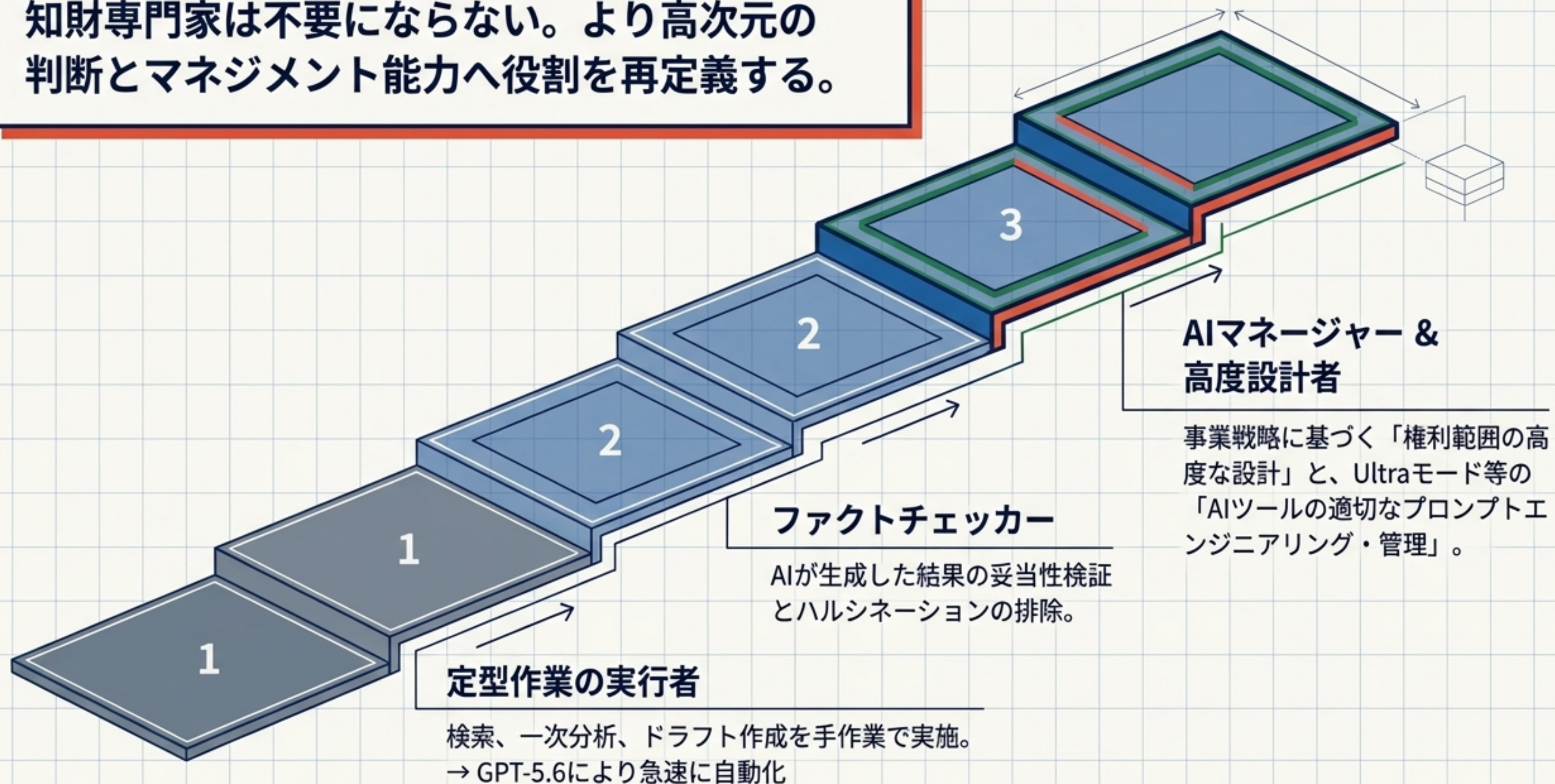
2. 創作的選択の明示

AIが提示した複数の
選択肢から、人間が
特定の構成を「なぜ
選んだのか（または
排除したのか）」と
いう判断のプロセスを
文書化する。

3. 最終的な権利設計

AIの出力をそのまま
用いるのではなく、
人間の手による独立
クレームの構築や実
施例の加筆を明確に区
分して管理する。

知財専門家は不要にならない。より高次元の判断とマネジメント能力へ役割を再定義する。



2026年 知財リーダーのためのActionable Insights

01

モデルの最適配置

高度な権利設計には「Sol」、定型翻訳・要約には「Terra」や「Luna」を使い分けるコスト・パフォーマンス管理体制の構築。

02

協働プロセスの標準化

「Ultraモード」を活用したマルチエージェント環境下での、AIと人間の役割分担の明確な社内ガイドライン策定。

03

貢献の記録体制

USPTO改訂ガイドラインに対応するため、発明成立過程における「人間の重要な貢献」を自動・半自動で証跡化するワークフローの導入。